

突哨山運営協議会 2021 年度 第 3 回協議会

2021 年 12 月 6 日 (月) 18:30 ~ 旭川市職員会館

出席者 黒川博義 塩田惇 舟橋健 桐一郎 尾崎良司 澤田勇 工藤稔
工藤和彦 山本牧
旭川市公園みどり課 笹川主査
事務局 中村直人 富岡雅志

以上 個人 9 名 団体 1 名 事務局 2 名 計 12 名

黒川 今日、私がここに座らせていただいたのは出羽寛さんが体調の都合がございまして休んでおりますので、代わりに座らせていただいております。ご了解賜りたいと思います。それから私は耳があまり良くないので失礼を申し上げるかもしれませんがご了解を賜りながら進めさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それではお手元の資料をご確認ください。

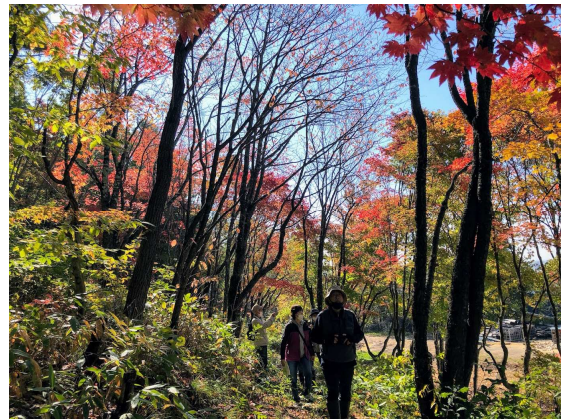
1. 報告事項

活動報告（主催・共催）と写真. 主催等の表記のないのは「運営協議会」が実施

- ・ 10 月 9 日 北大 天池氏 エキノコックス調査同行



- ・ 10 月 13 日 現地検討会 参加者 10 名
突哨山駐車場（国道沿い）案内看板の設置場所など確認
扇の沢からウラヤマクラシテルへの旧道確認



- ・ 10 月 20 日 カタクリ広場草刈り（突哨山と身近な自然を考える会）



・ 10 月 23 日 ロゲイニング テストイベント (旭川市観光課) 参加者 26 名

添付資料 1



スタート前の説明



電子式タグ



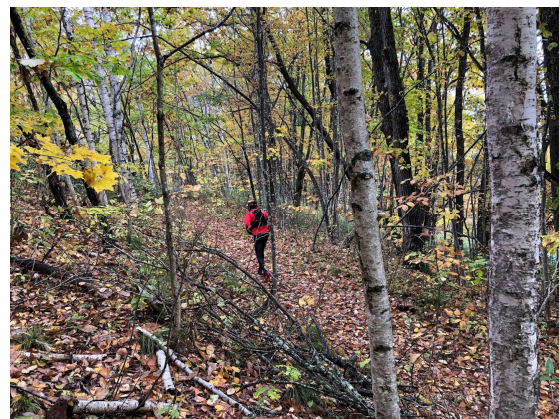
スタート時にタグを読み込ませる



地図を見ながら作戦を立てる



突哨山に設置されたチェックポイント



突哨山を訪れた方



突哨山の南端（チャシ）に設置されたチェックポイント

- ・ 10月24日 比布町秋の突哨山ツアー（比布町教育委員会）
参加者 小中学生16名 大人10名 合計26名



- ・ 11月1日 突哨山駐車場 トイレ撤去



- ・ 11月3日 芋煮会（突哨山と身近な自然を考える会） 参加者35名程



- ・ 11月4～8日 人工林間伐



添付資料2

- ・ 11月18日 カタクリ広場ハウス片付け（突哨山と身近な自然を考える会）
出羽さん、黒川さん、桐さん、澤田さん、中村
- ・ 11月18、19日 村上神社ノスリ調査
出羽さん、澤田さん、中村

巣の周辺の落ち葉をかき分けながら繁殖の証拠となる小動物の骨などの残渣を探したが見つからなかった。翌日ロープで木に登り、巣の内部を探したが同様に餌の残渣などは見つからなかった。

巣の大きさ：広い部分で110cm、狭い部分で60cm、高さ30cm

中村 18日は出羽さん、澤田さん、中村でドローンを使って巣の様子を撮影しました。19日はロープを使って木にのぼり巣の内部を調査しました

がいずれも餌などの残渣は見つかりませんでした。



2021年9月22日 午前9:00

カタクリルート3番付近のトレイルカメラにて撮影

調査結果を帯広畜産大学名誉教授の藤巻氏に報告したところ以下の回答をいただきました。

写真があまり鮮明でないのですが、背側の模様からみてノスリだとおもいます。

先日現場を訪れたとき、警戒声を出していたので、このときには繁殖中であったことは間違いないと考えています。繁殖した場合、食べ残しやペリットが残っていることもあります。必ずしも残るということはありませんので、途中で失敗したかもしれませんが、一応「繁殖」としてよいでしょう。

チュウヒの場合、ネズミが少ない年には、運んでくる餌には鳥が多くなります。ノスリの場合も、もしネズミが少なければ、他の餌をとっているはずですが、しかし、その場合には餌不足になることも考えられますので、このことが繁殖失敗の要因になりえます。

藤巻

・ 12月4日 旭川永嶺高校ツリー間伐（もりねっと）



・ 12月5日 突哨山間伐体験～クリスマスツリーのおすそわけ～

（もりねっと）参加者 一般 11組 26名 麦の子会 40名



ヒグマの出没について

突哨山内では7月5日のぴぴの路で、比布跨道橋では8月25日を最後にトレイルカメラにヒグマの姿はありません。

黒川 活動報告についてみなさんから何かありませんか。

工藤（稔） アプカシというのは募集はどういう風にしたいのでしょうか。

中村 正式な名前は分かりませんがトレイルランニング協会のような組織があって、そこに声をかけたようです。テストイベントなので一般に広く公募は

しないでその組織にだけ声をかけてこの参加人数だったようです。今回参加された方は普段山を走ったりだとか、自転車であちこち走り回っているような、積極的に活動されている方だそうです。

工藤（稔） 一般じゃないんですね。

中村 そうですね。先ほども内訳がありましたが、旭川だけじゃなく赤平とか札幌、鷹栖などからいらっしやっているようです。

黒川 他にはいかがでしょうか。

舟橋 アイヌの遺跡などの説明はこの場所に行ったら何かあるんですか。

中村 ないです。

舟橋 パンフレットに書いてあるものだけですか。

中村 そうです。今回は資料の最後に添付した案内しかないそうです。

舟橋 アイヌの史跡に行ってもよくわからないような気がするんですけど。

中村 そうというのは見てないような気がします。突哨山に来た方に声をかけたんですが、ほとんど会話をする暇もなくすぐに走り去って行きました。点数をかせぐとなるとそうになってしまうんじゃないでしょうか。

舟橋 スポーツと分けて歴史を学びたい人はきちんと学ぶというふうにした方がいいような気がします。

中村 これを機会にそういった存在を知るといことはあるでしょうけど。

山本 例えば、行った先でクイズがあって、それに答えると 5 点ずつ上がっていくとか、そういうことをすれば別ですが。今回はあくまでトレランの協会の関係者、旭川では普通に活動していらっしゃる方が 50 人ぐらいだそうです。それ以外は個人的にネットで調べたりして、28 人というところかな率ですね。元々走っている人たちがこういうイベントに参加してくれた。場所の名前も知らない人たちがこういう場所の存在を知っただけでも良しというのが観光課のねらいだと思います。これを今度はどういうふうに一般の人向けにやるのか、ということなんでしょうけど。

中村 まとめの中でも、もう少し歴史や文化を参加者の方に知らせるにはどうしたらいいのか、ということが書かれています。

黒川 他にありますかでしょうか。それでは報告事項はこれでよろしいでしょうか。

山本 突哨山はトレイルランニングの場所として推奨されたわけで、まさに今回もこのイベントの中に突哨山が組み込まれて、幸か不幸か 2 人ぐらいしか訪れなかった。今のところトレイルカメラで見ていると一週間に 2、3 人は、秋寒くなっても走ってました。そういう意味では今のところ人数は多くない。こういうのに踏み込まれたということに関しては突哨山側としてはいかがお感じなんでしょうか。来ない人が来てくれたというプラスの面もあるでしょうし、これをきっかけにトレランできる場所だと認知されて人が増えるということも考えられるでしょうし。今のところ具体的な問題は起きてないです。

黒川 私には少し聞き取れませんでした但皆さんが聞き取れていればいいです。他にございませんか。

それでは協議事項の方に行ってもよろしいでしょうか。

協議事項

ランニングコース（ホユッパ）パンフレットについて

旭川市観光スポーツ交流部観光課からすでに発行されているランニングコース（ホユッパ）のパンフレットについて、9月30日に突哨山運営協議会から意見の申し入れを行いました。

出席者 突哨山運営協議会 出羽さん、寺島さん、中村

旭川市観光課 北嶋課長 西原主査 村上さん

本件に関する観光課との意見交換は2回目となります。今回パンフレットの再発行にあたり、突哨山内の遊歩道でランニングをする際の注意事項をパンフレットなどに掲載し利用者へ注意を促すべきと伝えました。これに対し観光課よりパンフレット及びWEBマップへの掲載案をいただきましたのでご報告いたします。また、これを受け協議会からの意見を再度観光課へ申し入れすることになっておりますのでご検討お願いいたします。

注意事項の掲載例として以下の提案をいたしました。

- ・植物の踏み付けに注意する
- ・歩行者、散策者へ配慮する
- ・ヒグマとの遭遇に注意する
- （一人では入らない。クマ鈴をつける。朝夕時間帯の入山は避けるなど。）
- ・繁忙期を外す（GW期間中など早春の花の時期は散策者が多いため利用を避ける）
- ・大人数で走らない

観光課からの掲載案は以下のとおりです。

パンフレット：私有地や立ち入り禁止の場所には入らないでください。

自然公園内では散策路を進み、動植物の採取は行わないでください。

周囲の歩行者や散策者に配慮した行動をお願いします。

スペースが限られているため掲載できる文字数が限られる。

WEB マップ：（入山する際にご留意ください）

1 散策路内を進んでください。散策路を外れると植物を踏みつける恐れがあります。

2 動植物の採取は行わないでください。

3 他の入山者とすれ違うときには、声をかけるなど周囲に配慮した行動をとってください。

4 大人数での入山は避け、安全対策をしっかりとってください。

（鈴を身に付けてランニングするなどの対策をしっかりとってください。）

5.GW 期間中など繁忙期のご利用はご留意ください。

* マナーを守り, より安全で楽しい時間をお過ごしください。



← 突哨山散策路

名前

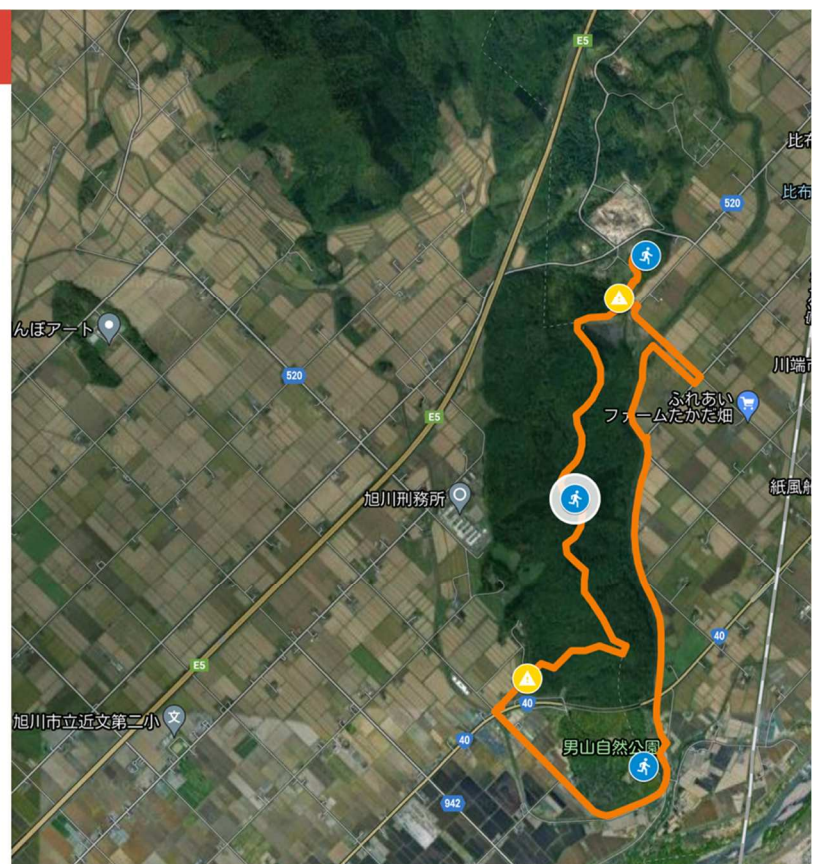
突哨山散策路

説明

(入山する際にご留意ください)

1. 散策路内を進んでください。
散策路を外れると植物を踏みつける恐れがあります。
2. 動植物の採取は行わないでください。
3. 他の入山者とすれ違うときには、声をかけるなど周囲に配慮した行動をとってください。
4. 大人数での入山は避け、安全対策をしっかりとってください。
(鈴を身に着けてランニングするなどの対策をしっかりとってください。)
5. GW 期間中など繁忙期のご利用はご留意ください。

* マナーを守り, より安全で楽しい時間をお過ごしください。



工藤（稔） そもそも大人数で走ることは想定されているのでしょうか。

中村 もしかしたら団体で走ることもあり得ると思います。

山本 カメラの記録ですと 5 人ぐらいで走っているのがごく稀にあります。ほとんどが 1 人か 2 人。大会をやりたいとなるとここで検討することになるんでしょうけども。集まって 5 人、10 人ということはあることだと思います。

工藤（稔） そもそもここをランニングするという発想は僕なんかには分からないから、どうですかと言われても分かりません。

中村 最近、山を走るというのが流行ってきてるんです。

澤田 突哨山を歩いているとたまに会います。

中村 記帳ノートに、とっても走りやすい道です、と書かれていたこともありました。

澤田 声をかけても走っているから返ってこないです。

山本 だいたい息が切れてるから「はぁ」という感じで、そういう気持ちはあるんだろうとは思いますが。先ほどの話に出ましたトレランの前田さんと話した時に、花を愛でる、ゆっくり散歩をしているところで正直言って個人的には違和感がありますと言ったところ、トレラン側からすると色々な利用形態があって、トレランする人自体が、登山をする人が走るようになった方と、それから平地をマラソンしている方が山を走るようになったのと 2 種類あるそうです。その中で良い悪いは言わないにしても、例えば登山道、旭岳、黒岳を登るところを走っていく人もいます。突哨山で大会をやる可能性はありますか、と聞いたところ、突哨山は小さくて狭いので大会を企画することはないそうです。逆に個人の趣味でやっている人が日頃トレーニングするには、近いし駐車場もあるし道幅もあるのでやりやすいと。だからしめないでくれということはいわれました。彼らからすると身近な練習場として非常にいい場所なんだということです。

黒川 皆さんいかがでしょうか。

尾崎 今度、遊歩道となったんですね。遊歩道口になったんですか。

中村 遊歩道口ではなく、突哨山口とかカタクリ広場口とか名称がついています。

尾崎 議案書の 8 ページでは散策路となっていますが。突哨山散策路となっています。

中村 パンフレットの方は複数の場所が記載されていますので共通の言葉になっていると思います。WEBの方は遊歩道に直してもらうことはできると思います。

尾崎 散策路というのは散策する道ですよね。遊歩道ということになるとランニングを許すことになると思います。言葉尻ですが問題はないですか。今結論を出さなくて検討してみてください。

- 中村 名称に関して修正できるか聞いてみます。
- 尾崎 散策するところを走るというのは、協議会で認めたんですよね。
- 中村 今のところ禁止するところまではいいいっていませんが、こういったパンフレットなどを配るのであれば注意書きを付けた方がいいんじゃないですか、と提案をしているところです。
- 尾崎 言葉がいっぱいあってもいいと思いますが、来る人にとっては、遊歩道ってどこなんだろう、散策路ってどこだろうって、僕らみたいな人間はなるんですよ。この間も提案したように、この前出羽さんが言ってたんですけど、入り口というのはないですと言ってましたよね。ところが、我々は山を結構登ってたんですけども、こういう登山ガイドってあるんですよね。どうしてこの前質問したかという、富士山には入口ありませんと言いましたよね。議事録からもそうなっている。ところが、我々もそうですけども、必ず書いてあるんですよ。富良野岳登山口。全部の山はあるんですよ。こういう風に。だから今回の提案では、僕は入り口と言ったんだけど登山口でも同じ意味があるから。登山口といった場合には入る入り口ですよ。素人の人は出口はどこだろうってなりますよね。ところが山に登っている人は登山口というのは入る入り口のことを言うんですよ。だからそう言うところもきちんと考慮してあげないと。あそこに管理人がいれば。あっちですよ、こっちですよと言えるんだけど。言葉の統一をこれからするんであればこういうのもしっかり見てやってもらわないと。私が発言するときはこういう根拠を持って発言しているのでよろしくお願いします。今決めなくてもいいです。
- 中村 観光課発行のパンフレットに注意書きを載せるとか、インターネット上の地図に注意書きを載せるということについて何かご意見ありますか。
- 工藤（和） まだアップされてないんですか。
- 中村 パンフレットの方が再発行の時に注意書きを載せる予定になっているので、そのタイミングでネットの方も更新されると思います。パンフレットに載っているバーコードをスマホなどで読み込ませると地図が出るようになっています。そこに注意書きが記載されるようになります。
- 黒川 他に何かございますか。
- 山本 ちょっと検討していただきたいんですが、これは僕の意見じゃないですから。説明です。こちらで提案した内容と観光課がこういう風にしましょうと言っているところで2箇所ほど大きなズレがあるんですが。一つは、繁忙期は外してくださいという風にお願いしています。ところが観光課の方ではウェブの方に、ゴールデンウィーク期間中など繁忙期のご利用はご留意くださいと。つまり「外してください」と「注意してください」とで、ちょっと表現が変わっています。これ一点です。もう一つは植物の踏みつけというのを気をつけてくれと。我々が一番懸念していたところです。その表現がスポッと消えて「採取は行わないで」。僕らもランニングする人が採取するとは思っていないです。だけどあえて採取はするなと書いて踏みつけに関しては表現がなくなった。

中村 ありますよ。1 番。

山本 踏みつける恐れがありますと、ウェブマップの方でしょ。散策路を外れるとっていう風に書いてある。つまり散策路を走っていても実は突哨山のコースは踏んでしまうところがありますよね。けっこうぎりぎりです。ですから踏み付けに注意してくださいというのは、実はランニングの人は僕らがいると必ず大きくよけて通ってくれます。そのことが逆に踏み付けにもなるので。踏み付けに注意ということを非常に強く言ってほしいと思っていたんだけど、これは僕が 1 回目の話の時にもあったんですけど、なぜか非常に表現がマイルドになっているので、その辺りを突哨山側としては、保全する側としてはどういう風にお考えでしょうか。そこを何も言わなかったらこのまま観光課の通りを突哨山協議会が OK したと。その辺はご意見をちゃんと確認しておきたいなと。

工藤（和） 年数とともに遊歩道自体が広がると考えたらいいですか。

山本 そういうこともあり得ると思います。

工藤（和） それはまずいことですか。

中村 大雪山などでは人が歩くと道がくぼんでくるので水が流れるそうです。そうすると水溜りになってグチャグチャになるので、今度はそれを外して歩くそうです、そうするとだんだん道が広がってくるようです。たくさん人が入るとそういうところもあるみたいですが、今のところ突哨山はそういう傾向はないです。

工藤（稔） そもそもこの地図を作るとかランニングコースを設定するとかの段階でこの会に相談なり報告なりあったんですか。

中村 なかったんですよ。

工藤（稔） そこを議論してないからこういう話になるんですよ。こういう申し入れをするのもいいと思いますが、一番最初の段階でここにランニングする人が入っていいかの話をきっちり協議会と観光課の方でしないと、きっと後々やめようという話になったりすると思います。その段階をきっちり踏まないとダメなんじゃないですか。

山本 その段階に関しては観光課からすると言ったつもりだったけど届いてなかったみたい。あまり事情はよく分かりませんが、そこら辺は中村さんに事情を聞いているから。で、一度そういう話になって僕が今度は役所じゃなくてトレランをやる人の世話人との事情を聞いて。これの元になっている出羽さん、寺島さん、中村さんが行って観光課と話をしている訳ですよ。その段階で基本的に前段の工藤さんが気にしている行き違いのところは飲み込んだ。で、話としてはトレランを排除するとか、そもそも論の入れていいとか排除するとかという話に関しては実態に追認する形でむしろ、冬でしたか、パンフレットの改訂は。

中村 秋だったんですが、ロゲイニングをやってからということだったのでまだできていないようです。

山本 次のパンフレットの改訂で文言は直します。ネットに載せる情報も直します。逆に言えば、それはトレランの場所として突哨山は認めたという形に

なってしまった。それを前提に話をしないと今はもう戻せない。ただ、あまりにもそこで弊害が出てくれば、ちょっと待ってくださいよとは言えるかもしれませんが、今のところ僕ら見ていてもそんなに踏みつけないわけでもないし、大勢がドヤドヤ来ているという状態でもないで、それはトレランをする民間の方の説明でも個人的なトレーニングのコースだから、そんな大きな利用はないと思うよと。だから締め出さないで欲しいという要望は僕は聞いているので。出羽さん寺島さんが行った時のその辺はある程度、ちょっと行き違いがあって聞いてないけどなんでこんな地図ができちゃったんだという話はあったんですけども。そこは大人の話で飲み込んだ上で、むしろ地図とかそういう説明をちゃんとしようよというところで話が今ついている。ただその説明に関しては今はまだ確定版ではないので直すんだったら今のうちということです。

工藤（稔） 牧さんが言うように春の一番いい時期に花を見に来ている人たちの横を駆け抜けていく状態が、1人や2人、3人が駆け抜けていく状態だって考えられるわけでしょ。そうするとおっしゃるように追い越される方が横にずれるのか、追い抜く方が横を走るのか、間違いなく踏みつけますよね。例えば花の時期は走らせないようにするとか、きっちりやった方がいいと思いますよ。ご注意くださいじゃご注意くださいよ。

山本 僕も実は直接交渉の中で花の時期は入らないでくれと、そういう表現をして欲しいと伝えたんですが、多分それは承知の上でこれを書いている。黙っていたらこのままになります。そこはこちらの要望を知った上でご注意くださいという風になっているんだろうなと思います。だから言うべきことは言わなければならない。ただランニングする人が花どきも走りたいと思っているのかもしれないですけども。

中村 ウェブマップの5番のところに「GW期間中などの繁忙期のご利用はご注意ください」とありますが、これを「ご遠慮ください」という風にしたいんじゃないでしょうか。

工藤（和） カタクリの開花時期は走らないように、としたらどうでしょうか。ゴールデンウィークからずれるかもしれないし。

工藤（稔） 1番の踏み付けと連動すると思うんだけど。

山本 中村さんが出羽さん寺島さんに行ったその辺の話はどういうやりとりになっているんですか。

中村 この議案書に書いてある通り、パンフレットなどに掲載すべき注意事項の提案をしました。

山本 そこではストレートに踏み付けに注意すると書いてあるし。早春の花の時期は利用を避けると書いてますよね。

中村 この提案はメールでも観光課の方に伝えてあります。

山本 そしたらこの内容をもう一度パンフレットとウェブに、この通りにしろとは言わないけど、少なくとも踏み付けと花どきの利用はご注意くださいというレベルではなく利用しないでくださいという趣旨の言葉にするということで、もう一度申し入れをするということですね。

工藤（稔） ヒグマに関しては注意も何もないですよ。

中村 そうですね。安全対策という形になってますね。鈴を身につけてランニングするという言葉は入っていますが、クマという言葉は入ってません。

工藤（稔） 入れた方がいいでしょうね。

山本 稀にいますからね。ヒグマにとって走ってくるというのは非常にスピードが速いので。

中村 ではこの鈴のところにヒグマの言葉を入れてもらうということですね。

山本 注意と言っても注意のしようがないので、たとえば鈴をつけるとかそういう行動で、うるさくてやってられないという人もいるし、中には怖いから腰にラジオをつけたりして、私は必ずつけてます。それはそういう場所だと言えちゃんとやってくれると思います。じゃあこの 3 点に関して事務局の方で改めて再提案をします。

中村 すみません。3 点とは何と何ですか。

山本 踏み付けと。

中村 踏み付けに関してはウェブマップの方に「散策路を外れると植物を踏みつける恐れがあります」とありますが。

山本 だから、パンフレットの方にも書いてくれと。パンフレットレベルでちゃんと入れるっていうね。

工藤（稔） 花の時期はしないで欲しいと入れる。

中村 植物の踏み付けに注意するということですね。

山本 場合によってはつないで書いてもいい。植物の踏み付けには気をつけてください。特にカタクリなどの開花時期には人が多いので利用をご遠慮くださいと。そういう風に続ければ根拠にもなるし。

中村 それをパンフレットにも書いてくださいと。

山本 パンフレットの方は非常に簡単に書いてるんで。

中村 パンフレットの方にヒグマに注意という言葉は入れなくてもいいですか。

山本 行数が三行しかないけども、少なくとも意見としては入れておけばいいんじゃないですか。だからパンフレットもウェブも等しく同じ提案をするということで。パンフレットはウェブよりもずっと文字数が少ないので圧縮される可能性はあると思います。要するに地図の中の四角の三行しかスペースがないわけでしょ。

尾崎 いいですか。

黒川 はい。

尾崎 7、8 ページのところで意見なんですけど、さっき言ったように言葉もいろんな言葉が溢れると来た人が。散策路と遊歩道。これで大丈夫だったらいいんですけども。もしあれだったらちょっと。まだ時間があるので。それからもう一つ。パンフレットに植物を踏みつけないという言葉が出ていますと、ランニングする人はですね、私は陸上を指導していたものとしては左側を走るように山でもどこでも指導をしてたんですけども。こうなるとランニングする人は真ん中を走るようになるのではないのでしょうか。真ん中を走るようになったら今度はここに出ている散策者というんですか、

この人たちは逆に追い詰められるように端の方に行く。そうすると何が考えられるかという私たち協議会はできるだけ笹の刈り込みをしないように広くしないようにと、これが出るまではやってみましたよね。前に私が言いましたように我々が花案内人をしている時でも、女の方が、花案内人するのはいいんだけども踏みつけてるんじゃないんですかと。どうしても熱心に説明をするから私たちも踏みつけながら説明をしてるんですよね。全く踏みつけるなというのはものすごく厳しいかもしれないんだけども。言葉だけ書いて実際に植物が荒れていたら困りますよね。だから大雪山でもどこでも園路の端の方は歩かせないように、ストックでもつかないように注意してますよね。それぐらい私たちの協議会というのはやらないと、本末転倒になってしまうんじゃないでしょうか。やっぱり植物を第一に考えて申し入れしないと絶対にトラブルが出てくると思います。たまたま突哨山はあまり人気がないところだからいいんですけれども。最初にきちんとと言わないと、分からない人に話をしてもなかなかうまくいかないの。植物は黙っていても道路の真ん中の方に生えてきますから。今年も外来植物を抜いた時も、中村さんは分かっていると思いますが、真ん中にフランスギクがびっしり生えますから。黙っておいたら。その辺うまく調整しながら、多分公園みどり課さんとしては共存したいという思いで聞いていると思うので。もし共存するんだったらうまくやらないと。あとでまた散策者の方から苦情が来る可能性がありますので。その辺を注意したらいいかなと思います。

桐 可能性だけでも、このイベント（ロゲイニング）は初めてですよね。今回突哨山に来た人は少なかったけれども、内容を変えて突哨山に集中するとか。これは変わってくると思います。増えても減ることはないと思います。けれども、花をつぶすとかというのは最低のマナーですよ。そんなに厳しくしなくてもいいけど一番最初だけが肝心だと思います。厳しいぐらいに言って、どうかとは思いますが。前もって厳しいぐらいにしておいた方が返っていいかなあと。後から厳しくするのは難しいと思います。

山本 僕、先ほどロゲイニングで皆さんの意見を聞きました。誰もご発言しませんが。僕はああいうイベントをやること自体が実はトレランを突哨山に引っ張るためのイベントですよ。観光課はもちろんいろんな知恵を絞って旭川のいろんな魅力をスポーツと歴史文化をとというのは当然あるんですけど、突哨山に関して言えば突哨山にトレランの人を呼び込むイベントなんです。それを何も言わなくていいんですか、と僕は問いかけをしました。誰もおっしゃらなかった。つまりイベントをやって人を呼ぶのをこれからも続けていいよと言ったと同じことなんです。

工藤（和） イベント自体はいいんじゃないですか。

山本 それはいろんな考え方があるので。僕の一存で言うわけじゃないので。皆さんが何も言わなかったということはイベントだからいいだろうと。来年もやるだろうとか、続くかもしれないし、それでトレランの人が増えていくのも許容しているんだと僕は理解します。

- 工藤（和） イベントはいいけれどもそこには規定が必要だと言うことですよね。議論としては。
- 山本 そう言う考えもありますね。
- 工藤（和） その規定的なものが守られないんだったらイベント自体はできないよということになりますよね。
- 山本 少なくとも規制というか注意事項としてはこういうのというのは今話が出たのでそれは伝えて表現も変えるし。もちろんそれが守られなかったら違うことになりますよという話だと思います。
- 工藤（和） 立て看板をして「この時期は入らないように」とやるとか。強硬策はできますよね。運営協議会として。
- 山本 それは次の話で、イベントは時期を外してやっていますから、それはちゃんと考えていると思います。
- 黒川 皆さんの意見がいろいろ出ましたのでそれを踏まえながら市の方と話し合いを深めていって欲しいと思います。そういうことでよろしいでしょうか。
- 中村 今出た意見は観光課の方に話をしてみます。
- 黒川 ランニングコースの関係については以上にさせていただきたいと思います。

突哨山遊歩道案内看板について

10月13日の現地検討会で出された意見をもとに案内看板のデザインを堀川真さんをお願いしました。先日そのデザイン案をいただきました。これについてご意見をいただきたいと思います。

添付資料3

- 工藤（和） 地図の内容に関して堀川さん言ってる「路傍」と「紙風船」ですが、「路傍」は同じ地域で時々話すんですけど、おじさん自体がいつまで続くかなみたいなことをおっしゃっているんですよ。この看板が何年後まで、10年とか考えてしまうとそこまで「路傍」が続くのか続かないのか。たとえば飲食店を明記するんだったら今「紙風船」の前にも「道」という飲食店ができたのでそこも載せないという話になってきてしまうので。
- 中村 ということは看板には「路傍」と「紙風船」は載せない方がいいですか。
- 工藤（和） 載せなくてもいいような気がしますけどね。
- 舟橋 載せなくてもいいですよ。これは突哨山口の看板なんだから飲食店なんて関係ないですよ。
- 中村 では飲食店については削っていただくことにします。トイレとかも削ってもしいいのかとおっしゃっていますが。トイレはあった方がわかりやすいですか。
- 山本 山に向かって建てるというのはどういう建て方になるんですか。
- 富岡 法面のところに立てる形になると思います。

- 山本 あそこは市道になると思いますが問題ないんですか。
- 笹川 駐車場の中をイメージしてるんですか。
- 中村 駐車場の中というのは舗装されているのでできないので。柵の外なんですよ。
- 工藤（和） 山に向かってこうですよ、ホテルドレミの鉄柱の前に建てると。
- 山本 「この看板の裏」という文言はひょっとすると堀川さんはこう建てるつもりで裏と言ってるんじゃないかな。
- 中村 堀川さんには現場でこうやって建てますと説明をしています。
- 山本 だったらこの看板の裏ではなく左側になるんじゃないですか。
- 中村 この看板の裏の坂道でもいいと思いますが。
- 工藤（和） 駐車場もちょっと坂なんですよ。
- 山本 これは駐車場の取り付けの路肩につけるんですよ。確かにまともに見える。
- 工藤（和） 「看板左の坂道を登って」の方がわかりやすいと思います。
- 中村 今工藤さんから「看板裏の坂道を登って」とカタクリちゃんが言っている言葉を「看板左側の坂道」にした方がいいんじゃないかという意見がありました。皆さんどうでしょう。
- 富岡 どこで看板を見るかによって変わってくると思うんですよ。
- 工藤（和） 看板を正面に見たら左側が坂道ですよ。右側にも坂道があるんですよ。駐車場から路傍に向かう坂道が。そっちの方に行ってしまう人が結構いるんですよ。だから看板の左側があの坂なんです。
- 桐 看板に矢印か何かは入れないんですよ。
- 中村 それは意見がありましたよね。看板に矢印を取り付けると。
- 桐 矢印があれば間違えることはないと思うんですが。
- 中村 矢印は堀川さんをお願いしたんですが、デザインに入ってこなかったのもう一度お願いしようと思っています。
- 工藤（和） 支柱は鉄ですか。
- 中村 木ですね。
- 工藤（和） ここ結構雪がすごいんですよ。今も看板もありましたか。
- 中村 今現在建っているのも木なんです。
- 工藤（和） 木を地面に刺すんですか。
- 中村 そこは看板屋さんと相談になると思います。ただ木の方が雰囲気がいいような気がします。
- 工藤（和） 確かにそうですね。
- 中村 突哨山駐車場の看板は木でできていますよね。
- 工藤（和） あれは結構太いんですよ。
- 中村 やっぱ細くなったら弱いんですかね。柱の太さとか細かいところは看板屋さんと相談しながら決めていくことになると思います。
- 工藤（和） 面積が増えると風の抵抗を受けやすくなりますよね。前と同じように倒れる可能性も考えて下をどうにかできればいいと思います。
- 山本 予算というか見積もりはどれぐらいなんですか。

中村 見積もりはまだ取っていません。予算としては全体で 30 万ぐらい見ています。

山本 絶対無理だろ。看板だけでも 30 万かかるぞ。

中村 突哨山駐車場の看板は 30 万ぐらいでした。

山本 あれは本体触ってないもの。

中村 ほとんど入れ替えてますから。腐っていてほとんど作り直してます。

山本 このパネルを製作して上物だけで 30 万とかそれぐらいかかるだろうし。おそらく建てるのに 2、30 万かかる。あの前もコンクリートのブロックで固めた時も、あの時は 20 万ぐらいだっけ。

中村 あれは全部で 30 数万ですから。

山本 まあいいや。とにかく予算ちゃんと組んでからやって。

中村 看板のパネルのデザインとしてはこんな感じでよろしいでしょうか。外枠のデザインなんですけど、堀川さんが 3 つぐらい案を出していただいています。上に丸太を削った銘板を乗せて、そこに丸い鉄のプレートを作って差し込むという形。もしくは銘板はなくてもいいですと。なしの場合はこのパネルの中に突哨山遊歩道という言葉を入れるということですよ。もう一つは丸太を切ったようなやつを柱の上にちょんちょんと乗せる。これがいいというのはありますか。

工藤（和） 堀川さんのセンスにおまかせした方がいいような気がします。

中村 デザインに関しては堀川さんにお任せということではよろしいでしょうか。あとは見積もりをとりながらやっていくような感じになると思います。

尾崎 一つだけいいですか。この地図なんですけれども、これ方角は合ってますか。N 極が西側を向いていると思うんですが。

中村 合っていると思います。一応ちゃんとした地図で確認をしてみます。

黒川 私はあまり聞き取れなくてご迷惑をおかけしていますが、皆さんの意見をまとめて堀川さんと相談しながら進めていただきたいと思います。

黒川 資料番号はついていんですが、ラン科植物の資料についてご説明をお願いします。

澤田 私から。前回舟橋さんから、旭川では突哨山にだけあるランということで紹介がありました。トケンラン、ミヤマウズラ、コフタバラン。その時の出羽さんから突哨山には何種類のランがあるのかと聞かれたので、私は適当に 16 か 17 ぐらいじゃないですかと話をしたので、責任があったので、私の資料で書いてみました。19 種類あるんですけども、その中ではっきり私が分らないのは 6 番のカッコがついているのがあります。クゲヌマラン。これはギンランと説明していたのを観察会でクゲヌマランだよと。ギンランとクゲヌマランの違いを私自身がちょっと分らないので。言われたのをそのまま載せましたがいいのかな。それからモイワランについては私の写真のデータには男山公園のところに行った時に写真を撮ったのが一枚だけあります。そのあとは私は見つけていません。それから 13 番のスズムシソウ。これは一回だけ観察会の時に見つかりました。そ

れから毎年そこに行ってみるんですけども出てきていないんです。確認されていないということで一応カッコをつけてあります。それから 17 番のミヤケラン。扇の沢分岐から北分岐に向かう途中で何箇所か見つかっています。ですが私一人で見つけているのでミヤケランなのかトンボソウなのか分かりませんが一応入れています。それらを入れると 19 種類ということで私の方では押さえています。舟橋さん塩田さん何かありましたらお話ししてください。

中村 ものすごく基本的なことですが、この花がなくなると決める基準はあるんですか。

舟橋 特に決まりはないんですが、何年も出なかったらなくなったということなんでしょうね。

塩田 同じ人が調査を続けて行って消えたとかというなら分かるけれども、いろんな人が行って、あったとかなかったとかいうのはまた別になるから。せっかくリストを頂いたので今後突哨山でチェックしながら行くと。これはこれから資料として使わせていただきたいと思います。

澤田 私は毎年写真を撮ったやつの一覧表、何月何日という記録だけは全部取ってあります。舟橋さんからこういう資料の作り方をいただいて。例えばオニノヤガラなら何月何日つぼみだったよ、花だったよ、実だよ、という具合にチェックができるようになっています。別に表を作っていて写真は写真で保存してあります。

黒川 ラン科植物について他に何かありますか。

2 . 連絡事項

今後の予定

- ・ 2022 年 1 月 近二小突哨山活動
- ・ 3 月 第 4 回突哨山運営協議会（去年は 3 月 15 日（月））

黒川 近二小突哨山活動は校内活動ですね。

中村 外でやります。おそらく焚き火して焼いたりという形になると思います。次回の日程を決めていただきたいと思います。

黒川 次回は 3 月 14 日（月）でいかがでしょうか。

全員 意義なし。

黒川 他に何かございますでしょうか。

全員 なし。

黒川 遅くなってしまいましたが今日はこれで終わります。お疲れ様でした。

以上